

でおさえることがだいじである。

イ. 教材研究の方法について

現象—変化するもの—変化させるもの、この3つの形で教材研究をすると容易である。

ウ. 星の観察について

星を見つけだす方法は、教室の中で教えねばならないので、次のことを考えていきたい。

- 子どもは空間の扱え方が困難であるので、みつける手だてが必要である。つまり線とせず、面で促えさせる。不透明な用紙に虫ピンで穴をあけ、何月何日何時の星座を早見盤でつくって、方位と角度をあらかじめ計算してスクリーンをななめにし、幻燈機で写す。3回も見せ、いろいろな形に書いた北斗七星をわたし、実際に見たように背景に貼らせる。

③ 体育部会

- へき地教育における年間計画、実際指導面についての研究。

ア. 指導計画の基本態度について

現行学習指導要領の目標の再確認と分析・検討を試みる必要がある。目標を具体的に把握し、次いで教材研究へと進むべきである。目標の分析(身体、能力等の面から)と教材の研究との両者の密接な結びつきにおいて実践すべきと考える。

イ. 教材のおろし方について

遊びの中から出発し、全体におろし個々に流していく方法、模倣の場合、教師の指示だけでなく、児童に発見させて形を形成していく流し方もある。

④ 家庭部会

- 複式学級家庭科学習指導計画例についての趣旨の説明と現場の実際指導の問題点の研究

ア. 趣旨説明

家庭科指導に当たり、指導者自身が家庭科の意義を理解し、明確な信念をもたねばならない。家庭は技能が重要な地位を占める。ここでいう技能は、実際の生活のしかたを身につけ、他の知識や理解とあいまって活用し、実際に価値ある生活目的を有効に達成していく能力を意味している。したがって偏重しないように注意を要する。

イ. 指導上の留意点

児童の発達段階や経験の理解をすることがたいせつである。

学習目標を児童にじゅうぶん把握させることである。

資料の活用を重んじ、自主的、自発的な学習が実践できるように指導すること。

以上研究協議の一部を掲載したが、複式学級担当者には有意義な講座であった。

4 山村教育研究会

(1) 中 通 り 地 方

- ① 期日 10月15日
- ② 会場 田村郡小野町立夏井第一小学校
- ③ 研究主題

「へき地、小規模学校の特殊環境にある、家庭学習はどうすればよいか」

(2) 研 究 内 容

子どもたちをとりまく農山村という母体環境を改善しなければならないことに着目し、なかでも父兄の教育に対する関心を高めることによって、家庭学習をいっそう充実させる素地をつくっている。

低学年には予習より復習を、子どもに宿題について興味をもたせるには、子どもに理解できる課題でなければならない。そのためには、低学年では、復習、ドリルの問題を課し、きょうの学習への結びつきを考え、処理のし方にも適切な方法が取られている。

① 家庭学習のくふう

従来の指導計画に改善を加えた点(算数)

- 目標の明確化と教師、児童との共有化をはかるために、単元の目標を具体的に分析して1時間毎に区分し、
教師からみて——目標 }
児童からみて——学習課題 } としてかけたこと。
学習課題を達成するために、あすの仕事と、その手順を児童とともに話し合ってきたり、目的、内容、方法について方向づけて「予習課題」としている。

② 家庭の協力

ア. 学校における学習のあり方を知ってもらうこと。

- 1ヵ月1回の参観日に予習的課題をとりあげた学習を参観してもらう。

- 家庭訪問、部落懇談会の折に働きかけ、理解を深めてもらう。

イ. 家庭学習のさせ方について正しい認識を持ってもらうこと。

- 学習しやすい環境をつくる。学習用具、机などの整備と学習しやすい明るい静かなふんいきの醸成につとめるとともに、児童に学習の時間をじゅうぶんに与え、仕事や遊びのバランスを考慮し、特にテレビを家族が見る時間と、児童の勉強する時間の調整をはかっている。

③ 分科会(小学校部会)

ア. 研究主題

「山村へき地小規模学校の特殊環境にある家庭学習はどうすればよいか」

イ. 研究発表者 夏井第一小学校教諭 牧口高儀
小島小学校田代分校教諭

大槻 太

ウ. 研究協議